

東京都新宿区の民間劇場における新型コロナウイルスクラスターの発生に関する見解について（事務局参考資料）

公益社団法人全国公立文化施設協会事務局
専務理事兼事務局長 松本 辰明

7月上旬に東京新宿区の「シアターモリエール」で発生した新型コロナウイルス感染症クラスターの発生について、東京都や保健所、劇場関係者、さらに報道等から得られた情報をもとに、以下のとおり発生要因等について整理しましたので、ご報告いたします。

なお、主催者からは現在まで直接お話をお聞きできない状況が続いており、依然多くの疑問点は残っておりますが、主催者のホームページ上での報告内容を参考にさせていただきました。

1 発生場所

- ・劇場 「シアターモリエール」（新宿区内）
- ・公演主催者 株式会社ライズコミュニケーション

2 公演内容

- ・公演タイトル：「THE JINRO」イケメン人狼アイドルは誰だ!!
アイドルグループによるゲーム形式のエンターテインメントで、舞台に十数名が登壇し、歌や踊り、クイズ形式での客席とのやり取りなどを含む公演
- ・プログラム
第1部：30分 イン트로ダクション（ゲーム説明）
休憩15分
第2部：約1時間30分 クイズ形式パフォーマンス

3 感染予防対策と発生要因

今回のクラスター発生の要因について東京都や劇場側、及び報道等の情報を総合すると以下のことが指摘されている。

- (1) 公演実施にあたっては、主催者は概ね当協会の感染予防ガイドラインに沿った対策をとっていたとしているが、一部に感染リスクが高い出演者や観客の行動等があった可能性が指摘されている。
- (2) 公演中の最前列の観客には、マスクに加えて、フェイスシールドを着用させていたが、見えにくいということで、結果的に全員がフェイスシールドを外していたことが確認されている。ただし、マスクまでも外したという事例は報告されていない。

- (3) 舞台と客席の間の距離が十分に取られていなかった可能性があり、舞台上で踊ったり歌ったりする演出であったことから、出演者の多くの飛沫が客席に飛散していた可能性が疑われる。
(公演では歌ったり、踊ったり、また舞台上の出演者と観客との間で相互に大声でやり取りする場面も多かったと推測される。舞台と客席の間隔も1m数十cmと近距離であったことから、舞台上から客席に多くの飛沫が飛んでいた可能性は否定できない。)
- (4) 空調と換気扇は作動しており、基準は満たしていたとの劇場及び主催者の見解ではあるが、保健所から空調機のフィルター等の交換を指示されたとの報告がされており、狭い空間で空中に浮遊する微小な飛沫粒子を排気するだけの十分な機能が備わっていたかどうかは定かではない。
- (5) 公演前後には、出演者と観客と対面で接触するようなことはなかったとの主催者の報告にはあるが、公演終了後に観客が主催者の目の届かないところで出演者を出待ちし、接触した事例があったとの報告もある。
- (6) 約8畳の楽屋に、11名の出演者が出入りし、窓は朝開放していたが、使用中は締め切った状態で、空気清浄機の作動や間仕切りの設置、マスク着用はしていたもののきわめて密な環境で感染リスクは相当高い状態であった可能性があるとの報告がある。
- (7) 感染した観客の中には、全12公演中7公演を鑑賞したとの報告もあり、観客から観客への感染リスクも相当高い状況にあったとの指摘もある。

4 留意事項

以上を踏まえて、形式的にはガイドラインをほぼ遵守していたと劇場側と主催者は見解を示しているが、狭い空間での発声が頻繁に行われるような公演においては、飛沫感染対策に万全を期すことがより一層求められるということから、以下の対策を強化することが必要である。

- 狭い空間での出演者の頻繁な発声を伴う公演の場合には、舞台と客席の間隔は、基準より距離を長く保つようにする必要ある。(この点では今回の1メートル数十センチは基準の2メートル以上を確保しておらず、ガイドラインを逸脱していたといえる。また、距離を置くと同等の措置として最前列の観客にはフェイスシールド着用を指示していたが、結果的に鑑賞の妨げになることから、全員外していたことも感染リスクを高める要因となったと考えられる。)
- 後半の第2部の公演では、空調や換気は一定程度機能していたとはいえ、

舞台上の出演者と観客の間で、大声での対話になされ、1時間30分以上にわたって、双方の飛沫が狭い空間内に充満してリスクが相当高まったことが考えられることから、発声を伴う公演においては、公演時間の配分にも十分留意する必要があると思われる。

- 公演前後の出演者と観客との接触については、劇場側と主催者の管轄外とはいえ、出演者と観客双方に感染リスクが高いことを警告し、行動を自制するよう一層周知徹底を図ることが重要である。
- 楽屋での密な環境と状態を回避するための対策を一層徹底することが重要である。

現在、第2波ともとりざたされる感染拡大が続いており、感染経路も不明で無症状の感染者も増えており、いつどこでクラスターが発生してもおかしくない状況にある。そうした中で劇場においてはじめてクラスターが発生した今回の事例から、我々は、ガイドラインを形式的に守ればよいということではなく、最も感染リスクが高いとされる飛沫感染と空気感染について、観客の行動にも留意した対策を徹底して講じることが求められているということを特に強調したい。

今回の事例を通じて得られた教訓をこれからの劇場・音楽堂等における感染予防対策に生かしていただくことを切に願うものである。

(令和2年7月31日)